

事例報告 H28-4

団体名： 下松市立米川小学校（山口県）・米川地区教育造林振興会

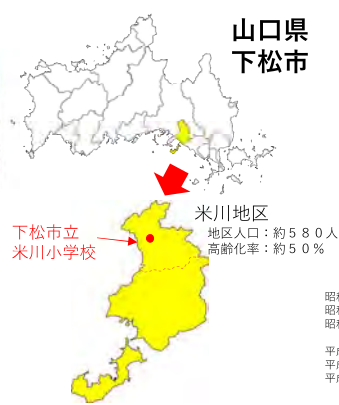
プログラム名： 児童と地域住民をつなぐ森林環境教育活動をめざして

(1) プログラムの目標		・地域の身近な自然環境に親しませる。 ・児童と地域住民との関わりを深める。 ・地域と学校の協働による環境教育活動の方策を検討する。	
(2) プログラムの概要		下松市立米川小学校は周囲を山に囲まれた全校児童15名の小規模校である。約9haの学校林を所有するとともに、“米泉湖緑の少年隊”として「総合的な学習の時間」を中心に環境学習や身近な地域の環境保全活動に取り組んでいる。 本プログラムは、学校林を始めとする学校や地域の特色、自然環境を生かした体験的な活動を行うことにより、自然の恵みや地域の人々の支えに感謝し、自然や人に学ぶ態度を育むことを目的とするものである。	
(3) プログラムの展開			
時間数	プログラムタイトル		指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	活動内容		
	in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分		
7.5	山菜採り遠足（4月）		事前に教員と教育造林振興会理事とで下見を行い、危険箇所等の把握を行う。 児童は縦割り班で行動し、上学年が下学年の世話をする。 行き帰りの山道で見られる動植物の説明を自然観察指導員が行う。 山野草は理事が事前に採集、名前当てクイズや丸太切り体験は理事が指導し、教員や保護者が補助につく。 各学年で事前・事後の指導を行う。   
	in 身近な地域の春の自然に触れるとともに、学校林の管理・維持への関心を高める。		
1	山菜を味わう会（4月）		コゴミやタラの芽、ウドなど地域で採れる山菜について紹介する。 進行は児童が行い、理事は各テーブルに分かれて入る。 食後に児童が感想やお礼の言葉を発表する。 
	about お世話になった人とふれあいを深め、地域の自然や人への感謝の思いを表現する。		
2	栗拾い（10月）		学校に近い中原学校林で栗拾いを行う。 栗は教員と児童で下処理を行い、栗ごはんとして給食で試食する。  事前に教員と造林振興会理事とで下見を行い、理事を中心に草刈りを行う。特に、イノシシの痕跡、スズメバチの巣などがいないか確認しておく。 傾斜が急な箇所もあるため、児童にはヘルメットを着用させ、安全管理に十分留意する。 栗の皮のむき方は、 上学年が下学年に教える。 
	in 身近な地域の秋の自然に触れるとともに、学校林の管理・維持への関心を高める。		

2	水源のもり植樹祭（２月）		
	徳山東ロータリークラブ主催の植樹祭に“米泉湖緑の少年隊”として３年生以上の児童が参加し、滝の口親水公園付近の“水源のもり”に自分の名札をつけたヤマモミジなどを植樹する。		森林のもつ水源涵養機能について学年段階に応じた事前指導を行い、森林を守り育てることへの意欲を高めさせる。植樹の仕方について米川地区環境整備協会が指導する。
	f o r 自然環境を守ることに関心をもち、自分にできることを考え、行動する。		
（４）プログラムでの連携内容 （教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）			
①連携・協働先 ・米川地区教育造林振興会 ・徳山東ロータリークラブ ・米川地区環境整備協会			
②役割分担 プログラムの実施にあたり、運営主体は学校であるが、米川地区教育造林振興会理事の協力の下で各プログラムを実施する。水源のもり植樹は徳山東ロータリークラブが主催し米川地区環境整備協会が指導する。			
③具体的な連携・協働の内容 山菜採り遠足や栗拾いでは事前に教育造林振興会理事会を開催し、実施計画の検討や準備を行う。個々の活動の指導についても理事にお願いする。 山菜採り遠足は地域の恒例行事として、保護者はもとより地域住民の参加もある。参加する地域住民には児童の安全管理の面で協力してもらおう。また、自然観察指導員に動植物の解説をお願いする。 水源のもり植樹祭においては、米川地区環境整備協会に植樹作業の指導をお願いする。			
（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目			
教科・項目、視点		学習内容	
2 自然的特性 生活：身近な自然の観察、利用 理科：生物と環境 植物の成長、結実 季節と生物		山菜採り遠足では、行き帰りの山道で見られる植物や野鳥などを自然観察指導員の解説から学ぶ。また、自生する山菜の採集やクイズなどを通じて多様な植物が身近にあることを理解する。 栗拾いでは、栗の様子だけでなく、ハゼノキやイノシシの足跡等から身近な動植物の生態や特徴を知り、対処法等を身につける。	
3 多面的機能 社会：国土の自然・環境 飲料水		人の手によって植林され、整備された学校林と、遠足の道中に見られる自然林の違いを見て感じ取るとともに、木材生産や果樹林としての森林の役割や、「水源のもり」の果たす、水をたくわえ、長い時間をかけて流すはたらき、土の流出を木々の根が防ぐはたらきなど、森林と生活との関わりについて理解を深める。	
5 管理・維持 社会：国土保全 地域の生活		学校林の目的や経緯、植林した森林を管理していくことの大変さや作業の苦労等について、教育造林振興会理事や地域住民の説明を聞くとともに、防火標語の設置や枯れ枝を集める等の整備活動、ノコギリを使った丸太切り等を通じて体験的に学ぶ。	
（６）活動の分析（資質・能力の視点）			
項目		E S Dの要素（７つの能力・態度）の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載	
①生きて働く「知識・技能」の習得		5 他者と協力する態度 活動のほとんどを学年単位ではなく縦割りの班編制で行うことで、周りの人に対する配慮や協力の意識の高まりを促し、よりよい人間関係づくりにつなげる。また、上学年の児童が下学年の世話を行い、下学年児童は上級生に教えられたり真似たりしながら活動に必要な知識や「生活のわざ」を伝えていく。	
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成		4 コミュニケーションを行う力 いずれの活動においても、最後に振り返りの時間をもち、児童一人一人が活動を通して感じたことを発表するとともに、代表の児童が指導者へのお礼を述べる。お互いの感想を聞き合うことで、一人一人の感じ方や表現の仕方の違いを知り、小規模校の課題である表現力の育成やコミュニケーション能力の向上につなげる。	
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養		6 つながりを尊重する態度 多様な森林（スギやヒノキ、クリの学校林や地域の自然林、水源のもり）や自然環境（山道や沢の動植物、山菜）と自己の生活との関わり、お世話になる地域の人や保護者、児童同士のよりよい関わり合い方、また、伝統を受け継ぎ次代へ伝える役割を担うこと等について体験を通じて意識化させる。	
（７）実施後、参加者の変化			
実施後の振り返りから ＜教職員＞ ・山を歩くことに不慣れだった１年生も一日の活動を通して自然に触れることの喜びを味わうことができ、帰路は難なく山道を下りました。丸太をノコギリで切る体験は達成感があったようで、何回も挑戦していました。 ・山菜採りや栗拾いなどの体験は米川小でしかできないことと話していました。造林の方々に心を込めてお礼の手紙を書きました。 ＜児童＞ ・遠足の途中、いろいろな植物や動物が争ったような跡がありました。身近な自然について学ぶことができました。 ・防火標語を取り付けるとき、学校林の木が去年より大きくなっているようでした。何十年もかけて育った木を大切にしていきたいと思います。			

下松市立米川小学校 米川地区教育造林振興会

学校と地域をつなぐ森林環境教育活動



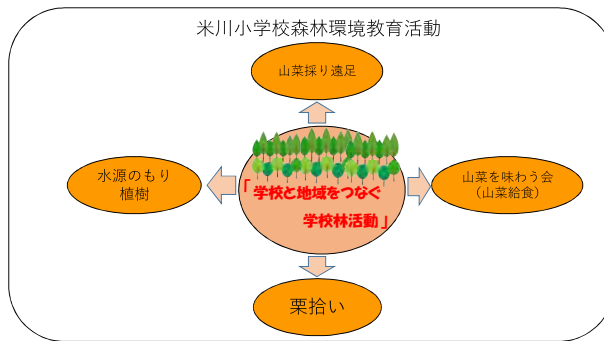
米川地区教育造林振興会
理事の皆さんと児童

学校林活動関係の主な受賞歴

- 昭和45年 全国学校造林コンクール 特選 第1位
- 昭和57年 全国学校林活動コンクール 特選
- 昭和60年 緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰
- 山口県メダル栄光文化賞 (米川地区教育造林振興会)
- 平成14年 ノースロップ賞
- 平成15年 山口県メダル栄光文化賞 ()
- 平成21年 水資源保全活動 国土交通大臣表彰

米川地区教育造林振興会

- (目的)
- 第2条 本会は下松林野条例に基づき、米川小学校植林の振興をはかることによって、学校教育の向上を資することを目的とする。
- (事業)
- 第3条 本会は第2条の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 学校林地の植林
 - 2 その他目的達成に必要な事業
- (会員)
- 第4条 本会は米川地区在住の全戸をもって会員とする。
- (米川地区教育造林振興会規約)



山菜採り遠足 (4月)

学校林のある西谷地区への片道5kmの遠足 (学校・教育造林振興会・保護者・地域住民)



丸太切り体験



学校林の整備作業 (防火標語付け・枯れ枝拾い)

西谷学校林 約5ha
(スギ・ヒノキ)
林齢50～60年



山菜(コゴミ)採り



山菜クイズ



活動の振り返り

山菜を味わう会（山菜給食）

地域の山菜を給食に添えた会食（学校・教育造林振興会）



地域の自然の恵みと、支えてくださる方への感謝

栗拾い (10月)

学校から1kmの中原学校林での栗の収穫（学校・教育造林振興会）



中原学校林
約2ha

(スギ・クリ)



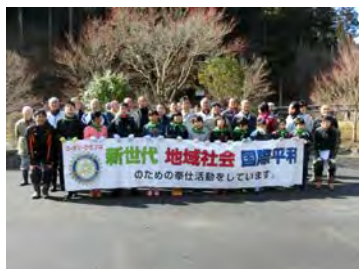
皮むき（昨年度）

秋の里山の自然に親しみ、収穫の喜びを味わう

水源のもり植樹 (2月)

“米泉湖緑の少年隊”3年生以上が参加

(学校・徳山東ロータリークラブ
・米川地区環境整備協会)



環境保全について学び、進んで地域に貢献する子どもの育成

今後の活動の展開

